
天狼記ーテンロウキー

酒井 優羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天狼記―テンロウキ―

【Nコード】

N5343K

【作者名】

酒井 優羽

【あらすじ】

私達が住む世界とは違う、別の世界の話――。主人公・玖狼椿は、幼い頃に父母を亡くし、祖母と暮らしていた。そこには古くから村を守護する姫と東西南北をつかさどる4人の守護者がいた。椿はその『姫』に選ばれてしまう。そして、守護者と生活を始めるのだが、村のあるモノを奪いに『狼』^{ロウ}とよばれる者達が現れ――。・。・。

姫と守護者、狼、そして本当の自分を知っていく椿に最後に訪れるものとは――？ 異世界和風ラブファンタジー。

昔々―『狼』

昔々――。人間と『狼』^{ロウ}とよばれる者達がいた。

『狼』は、見た目は人間と変わらないが、人並みはずれた身体能力と嗅覚、そして独特の能力を持っていた。人間達は、そんな『狼』を少しずつ恐れるようになった。そしていつからか

「アレは、凶暴だ。」

「恐ろしい、血に狂う殺人鬼だ。」

「見た目は人間でも、中身は化け物だ。」

――人間達は口々にそう言うようになった。しかし、無理はなかった。彼ら――『狼』は、月がでるとその体から獣の耳とするどい爪と尾が現れるのだから……。そして、満月ならば『狼』は一番その力を発揮する。

人間達は決めた。アレを、あの化け物をこの世から無くしてしまおう。『狼』は強い、だが人間のほうが数が多いからどうにか殺せるだろう。

そして――・・・

昔々―『狼』（後書き）

新しい物語です。最後までお付きあいくださると嬉しいですよ。これ以上、連載増やしてどうすんだってカンジですけど。（笑）

この話は、けっこう恋愛系で進めていくつもりです。でも、たぶん次は登場人物紹介になると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5343k/>

天狼記ーテンロウキー

2010年10月9日02時05分発行